

カトレア・サービス  
さくら・きくいしばた

# 研修報告

さくら：〒457-0026 名古屋市南区見晴町 1-15 TEL:052-811-2949,825-5562,824-0296 arch-sakura@2949n.com  
 きくい：〒451-0044 名古屋市西区菊井 1-10-10 TEL:052-581-2949・2943 arch-kikui@2949n.com info@2949n.com  
 しばた：〒457-0814 名古屋市南区柴田本通 2-1-1 TEL:052-613-2949・2944 arch-shibata@2949n.com

あいち児童発達支援連絡会～ベーシック研修～

実践につながる子どもの理解 「気になる子」をどうとらえ、どう働きかけるか

日時：2019年5月23日(木)

主催：あいち児童発達支援連絡会

講師：竹沢清さん（あいち障害者センター 元愛知県聾学校教員）

参加者：赤崎、小澤、安田、鳥居、安井

今回の研修では、竹沢さんが聾学校で教員をされていたときの経験談を踏まえ、いろいろなお話をしていただきました。事例を所々に入れながら話していただいたので、とてもわかりやすく、笑えるところもあり、とても面白い研修でした。

まず、竹沢さんが話されたことは、人間は奥深いという話でした。最初は面倒くさいなと思っていても、深く関わるうちに「こういうことなのか！！」と気づき、その子の想いが少しずつ理解できるようになってくることが面白いと言われていました。

聾学校に務められていた経験から、日本語の難しさについても言われていました。Mさんの事例をもとにお話をいただきました。聾学校を卒業し働いているMさん。Mさんは聴覚障害があり、人の口の動きを読んで生活しています。

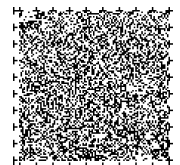


勤め先でMさんは他の職員さんから「8時になったら、あがって」と言われました。「あがる」というという言葉にはたくさんの意味があります。本来、職員さんが言った意味は「8時になったら帰っていいよ」という意味でしたが、Mさんは「8時になったら2階の部屋に行って」という意味だと思いました。たくさんの意味を持つ単語は口の動きを読むだけで理解することが難しいです。Mさんは2階に行っても何をするかわからず、わからなかったら人に聞くということができたので、職員さんが言っている意味が「8時になったら帰っていい」と理解

ることができたと話されていました。この話を聞いて、わからないことを他の人に聞く力、できないことを助けてと伝えられる力は「生きる力」だと感じました。私もそうですが、人間は一人では生きていけません。誰かしらの力を借りて生活しています。

自立とは、誰かの力を借りながらの自立なのだと思っていました。

次に、学校でのお話もいただきました。聴覚障害と知的障害のあるSさん。給食の時間にパンとジャムを竹沢さんの前に差し出してきたそうです。竹沢さんはSさんがパンにジャムを塗ってほしいと伝えていること



はわかっていたのですが、そのパンをパクっと食べてしまいました。Sさんは次の日からパンとジャムを出すことはなくなったそうです。「やってもらう」生活が当たり前になっており、パンを差し出せば誰もがジャムを塗ってくれるものだとSさんは思っていました。しかし、食べられるという経験を機会にこの人は甘えてもいい人、この人は自分で頑張ろうという人というSさんの中での人間関係に濃淡が出てきたそうです。



指導とは、その子が越えることができそうな矛盾を作り、その気にさせること。発達とは、その矛盾を越えることだと竹沢さんはおっしゃっていました。子どもを「その気にさせる」ということが本当に大切です。木で例えるなら、意欲は幹、できるようになったことは花です。幹を太らせれば、栄養が行き渡りたくさんの花が咲きます。「楽しいからやってみようかな」、「褒められるのが嬉しいからやってみようかな」などと思ってもらえるようなアプローチが必要です。そのアプローチの仕方はその子その子によって違い、またその時その時でも違います。常にどの方法がその子にとって合っているのか、もっと良いアプローチの仕方はないものかと考える重要性を改めて感じました。



また、その子の立場に立って考えることも大切です。なぜ、みんな教室に行ったのにこの子は教室に入れないのだろう？・・・みんなが教室にいるから入れないのではないかな？・・・なぜ？・・・入ったときにみんなが一斉に自分の方を向いたら自分も入りづらいなあ・・・じゃあ今度は最初に教室に入ってもらおうかな。というように違った視点から支援方法を考えることができます。

問題行動に関しても話されていました。問題行動は発達要求でその子の願いが屈折してあらわれており、困ったなあと感じる子は困っている子です。いつもと違う行動をしたときに「え、なんで??」「なんで今日は違うのだろう？」と気づき考えることが大切です。変化に気づき、なんで??とその子の様子を観察することで本人が気にしている（興味を持っている）ものが見えてきます。

今回の研修を受けて、改めて再確認することがたくさんありました。今回の研修で一番心に残ったことは「納得」という言葉です。この納得という言葉は子どもにも大人にも当てはまります。子どもの内面を理解しようと工夫したり、内面の理解をするための努力をしたり推察をすることが大切です。その子がどうしてその場から動かないのかが理解できていないと、どこまで待てばいいかわからないので待てないのです。ここまでやらないと次の行動にうつることが難しい、と理解できていればその子のタイミングが来るまで待つことができます。大人でも納得していないと待つことができないのに、子どもに納得してもらわずに行動してもらおうなんてできるはずがないなあと改めて感じました。今回の研修は、ベーシック研修ということでしたが、日々の支援を見直す良い機会となりました。「みんながやっているから、あなたもやってね」なんてことは大人の都合でしかありません。どうしてやりたくないのか、自分が子どもの立場だったらどう思うかを考え、「ちょっと頑張ってみちゃおうかな？」と子どもの意欲を引き出せるようなアプローチの仕方を常に考えて子どもたちの大切な時間をともに過ごしていきたいと思います。(安井由香)

